



## 会津農林事務所農業振興普及部だより

VOL. 252(平成25年11月20日発行)

編集・発行 ■会津農林事務所農業振興普及部  
住 所 ■〒965-8501  
会津若松市追手町7-5

電話 ■農業振興課 0242-29-5303  
地域農業推進課 29-5306  
経営支援課 29-5307  
有機農業担当 29-5317

ホームページ ■会津農林事務所農業振興普及部で検索！

## 第54回福島県農業賞受賞！！ 遠藤充孝さん・喜子さん 御夫妻（磐梯町）



遠藤さん御夫妻と佐藤雄平知事

平成25年9月10日(火)、福島市の杉妻会館において、第54回福島県農業賞表彰式が開催され、磐梯町の遠藤充孝さん、喜子さん御夫妻が表彰されました。

お二人の農業経営は、水稲とトマト、しいたけの複合経営で、水稲およびトマトの栽培でエコファーマーを取得し、「環境にやさしい農業」を実践しています。特に、トマトはJAあいづ磐梯トマト生産部会に所属し、「磐梯ミネラルトマト」として高品質なトマトの生産を行っています。しいたけは、磐梯町の豊かな山林を活かして栽培しています。

また、地元のミニライスセンター運営にも協力し、住民との絆を強めながら、経営と地域の発展を目指しています。

この度は、お二人の農業経営はもちろんのこと、地域農業の発展に御尽力されてきたことが高く評価されました。誠におめでとうございます。

## オタネニンジンを絶やさないために！

江戸時代から会津地方で栽培されてきたオタネニンジン（薬用人参）は、高級品として海外で高い評価を受けてきました。最近漢方生薬として需要が高まっていますが、約8割を外国産に頼っていることから、国内生産の拡大が求められています。

このような中、農林事務所では、市町村、JA、加工販売業者等を構成員とする「おたねにんじん推進協議会」を設立し、推進体制を整えるとともに、採種や低コスト省力栽培に取り組む場合、初期生産資材への助成として10アール当たり100万円を上限に補助する「ふくしまの特産品復活支援事業（おたねにんじん需要即応生産支援事業）」等を実施しています。オタネニンジンには、平坦地での栽培はもちろんのこと、耕作放棄地や中山間地域の振興作物として有望であることから是非、作付をご検討ください。

なお、補助事業については農業振興課へ、栽培については経営支援課へお問い合わせください。



オタネニンジン栽培研修会



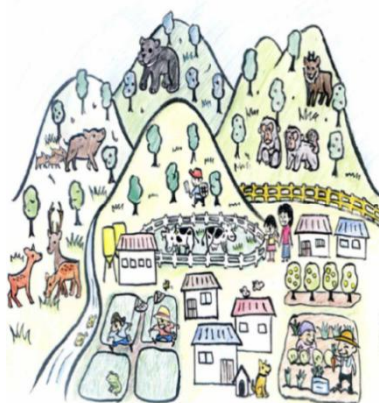
# 有害鳥獣被害防止対策研修会

平成25年9月13日（金）に会津若松市で会津地方の市町村や関係団体の鳥獣被害担当者を対象に、「会津地方有害鳥獣被害防止対策研修会」を開催しました。「会津地方で増加しているイノシシの対策について」をテーマに、「有限責任事業組合おーでらす」の今野万里子氏を講師に招き、イノシシの出没痕跡の写真等を活用したゲーム形式による被害状況確認手法について研修するとともに、県農業総合センターの木幡栄子主任研究員からイノシシの被害防止対策技術について説明を受けました。また、各市町村のイノシシ対策の取組みやイノシシ防除電気柵資材について情報の共有化を図りました。なお、被害防止対策については、経営支援課までお問い合わせください。



出沒痕跡の確認

## クマ、イノシシ、サル等の獣がなぜ被害を及ぼすのかを考えたことがありますか？



獣と人間の棲み分け図

山里で牛や馬を使って農作業をしていた頃は、集落の土手や川、山沿いの刈り払いを行った草を家畜の餌にしていました。荒地も少なく、集落と山林の界がはっきりとしていて、獣と人間の棲み分けができていました。しかし、現在は農村地域の人口減少や離農等に伴い、山林や畑等の手入れがされず里も山林も荒地、耕作放棄地が増加しています。獣は、荒地から耕作放棄地を通って、住宅地に出没するようになり、農作物等の被害が発生するようになりました。でも、獣の捕獲だけで被害を防げるでしょうか？。サルを捕獲すればサルの集団が分裂します。クマを捕獲しても、他の地区から移動してきます。

イノシシは一度に生まれる子供が多く、いくら捕っても減りません。



獣から生活を守るために何ができるでしょうか？昔の集落のように、山林と山里の界をはっきりさせ、獣から人間の住む場所が認識でき、人間から獣が認識できる「棲み分け」の環境（森林の刈払い、耕作放棄地解消）を作ることが大切です。是非、補助事業等を活用し、「棲み分けゾーン」（緩衝帯）を作り、被害対策を行いましょう。なお、補助事業等に関しては、農業振興課までお問い合わせください。

## 福島県GAP推進マニュアルの改訂について

県は、農産物の安全性確保において重要な役割を担ってきたGAP（農業生産工程管理）について、平成18年に「GAP推進マニュアル（初版）」を策定し、その普及に努めてきました。

しかし、原発事故で放射性物質による農地等の汚染が発生したことや、農水省が「GAPの共通基盤に関するガイドライン」を策定し、GAPの内容について国の指針を示したこと等により、GAP推進マニュアルを改正する必要が出てきたことから、県では平成24年度にマニュアルの大幅な改訂を実施しました。この改訂版は今年度から運用されており、JA等のGAPの取組みにも反映されています。皆さんで、GAPに取組み、農産物の安全・安心を確保し、風評を吹き飛ばしましょう。

### 改訂の主なポイント

- ①リスク要因および取組み事項に放射性物質対策が盛り込まれた。
- ②取組み事項を、「必須」、「推奨」、「地域限定」の3つのレベルに分けた。
- ③「必須」項目はコンプライアンス上の必須項目を全て含んでいる。
- ④内部監査の実施方法について具体的に明記された。
- ⑤問題が発生した場合の詳細な対応マニュアルが明記された。

※詳細については、福島県環境保全農業課のHPで確認できます。

# 9月3日に堆肥散布機の実演会を開催しました

～園芸作物を対象に畝間等への散布が可能な小型の堆肥散布機を実演～

実演会は、JAあいづの協力を得て若松カントリーエレベーターの敷地内において、生産者等約70名が参加し、4種類の散布機の特徴や性能などの説明と実演を実施しました。

園芸作物の生産性向上のためには、堆肥を利用した土づくりが重要ですが、原発事故の影響等もあり、堆肥の施用量が年々減少し土づくりが不足しています。

また、堆肥の利用を推進する事業等もありますので、農業振興課または、経営支援課へお問い合わせください。



小型堆肥散布機の実演

## 堆肥を適正に施用して、地力の回復・維持に努めましょう！

### ○堆肥施用の効果

堆肥の施用は、窒素・リン酸・カリや微量元素などの養分の持続的な供給や土壌の団粒化促進などの物理性の改善、土壌微生物活性化の促進など土づくりの基本技術です。

### ○堆肥施用上の留意点

未熟な堆肥を用いると作物の生育に障害が発生しやすいので、施用する堆肥は十分腐熟（完熟）したものを施用してください。また、堆肥の成分や施用量によっては土壌中の塩基バランスの不均衡により作物の生育に悪影響を及ぼすことがあるため注意を払う必要があります。施用にあたっては、多肥傾向にある施設土壌などで塩基バランスの不均衡が多く見られますので、土壌分析により適正な施肥設計を行うことが最も重要となります。

### ○堆肥の肥料成分を考慮した施肥設計

堆肥に含まれる窒素成分を分析し（流通している堆肥は成分量が記載されていますのそれを参考とし）、右記の計算例のように有効化率（％）から有効成分量を計算し、有効成分量を全施肥量から減肥する施肥設計を行ってください。

#### 窒素有効成分量の計算方法

例）牛ふん堆肥で窒素成分が1.1%であった場合：				
（有機物施用量）	（窒素成分量）	（有効化率）	（窒素有効成分量）	
1 t	× 11 kg/t	× 20%	= 2.2 kg/t	
例）鶏ふん堆肥で窒素成分が2.8%であった場合：				
（有機物施用量）	（窒素成分量）	（有効化率）	（窒素有効成分量）	
1 t	× 28 kg/t	× 60%	= 16.8 kg/t	

## 暫定許容値以下の堆肥は安心して利用できます

福島県農業総合センターにおいて、放射性セシウムが暫定許容値以下の堆肥の安全性を確認するため、400Bq/kgの放射性セシウムを含む堆肥を施用（10アール当たり4t）してコマツナを栽培する試験を行いました。その結果、収穫したコマツナの放射性セシウムの吸収量は、堆肥を施用せずに栽培したコマツナと同様（吸収量は1Bq/kg未満と非常に微量）でした。

## 県内で滞留している堆肥を解消するために対策を行っています

安全な堆肥なのに流通が一時中断して滞っている県内の堆肥の利用促進を目的に、東京電力では堆肥の運搬や散布を行う仕組みを作りました。

農家の皆さんが、この仕組みを活用して堆肥を施用する場合は「堆肥代」のみで県内の堆肥を利用できます。

なお、県内の供給可能な堆肥の情報等については、経営支援課にお問い合わせください。

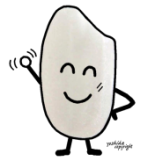
# 米全量全袋検査及び稲わら、籾がら等の取り扱い

米

平成25年産米の放射性物質全量全袋検査がJAや集荷業者で行われています。基準値以下の袋には、桜の透かしの入った「放射性物質検査済QRコードラベル」が添付されます。

自家用の飯米や縁故米等についても前年同様に検査を実施しています。

検査料などの農家負担はありませんので、各検査場に連絡して検査を受けてください。



稲わら

①稲わらのモニタリング検査が終了し、会津若松市、磐梯町、猪苗代町における飼料・土壌改良資材としての利用は可能となっています。なお、米の全量全袋検査での放射性セシウム濃度が100Bq/kgを超える玄米が発生した市町村は、再度利用自粛となりますので注意してください。

②稲わらを燃やすと煙害で周辺地域に迷惑をかけますので、地力向上のためにも水田に鋤込みましょう。

籾殻、米ぬか、籾がらくん炭

米の全量全袋検査結果の最高値に下記の加工数を乗じた推計値が利用目的ごとの暫定許容値以下であった場合、その生産者（またはロット）毎に利用が可能です。例えば、籾がらくん炭を土壌改良資材として利用する場合は、米の全量全袋検査結果が40Bq/kg以下であれば利用が可能です。

①籾がらの推計値＝米の検査結果×3、②米ぬかの推計値＝米の検査結果×8、③籾がらくん炭の推計値＝米の検査結果×10。

## 会津農林高校の生徒による会津地鶏飼育試験



会津農林高校生と鈴木主査

会津地方に古くから伝わる会津地鶏に、会津地方のリンゴジュース粕を給与する飼育試験を、(有)会津地鶏みしまやと農林事務所の指導のもと、会津農林高校の3年生が実施しました。

試験では、8月から9月までの1ヶ月間、リンゴジュース粕を給与する区と給与しない区に分け、会津地鶏の飼育を続けました。

9月19日には、学生が試験に用いた地鶏の解体し、部位毎の重量を測定しました。今後は、官能試験や成分分析を行った後、試験結果を取りまとめる予定です。この試験が、会津地鶏の生産現場で活用されるとともに、学生

にとっては、会津地方の特産である会津地鶏に対する理解醸成の一助になればと期待しています。

※会津地鶏についてのお問い合わせ先

株式会社会津地鶏ネット URL <http://www.aizujidori.net/> Tel 0242-26-2266

有限会社会津地鶏みしまや URL <http://www.aizujidori-mishimaya.com/> Tel 0242-48-5860

### 腐葉土・剪定枝堆肥等に関するお知らせ

農家が自ら落ち葉等の原料を採取し生産・施用する有機質土壌改良資材及び腐葉土・剪定枝堆肥については、原発事故以降、新たな生産・施用をできるかぎり控えるよう要請しておりますが、やむを得ない事情により利用等を再開したい場合には、国との協議(予備調査等)が必要となりますので注意するとともに、農林事務所、市町村、JA等へ事前にご相談ください。

### 平成25年度農業経営確立発展研修会開催のお知らせ

平成25年12月 2日 販売力向上のためのSNS活用術(基礎編) 平成26年 1月21日 戦略会計STRAC  
平成25年12月10日 経営戦略とブランド化 平成26年 1月27日 リスクマネジメント・労務管理  
平成26年 1月21日 販売力向上のためのSNS活用術(応用編)

福島県農業会議 (Tel:024-524-1201)または、地域農業推進課までお問い合わせください。  
なお、参加申込は、開催日の1週間前が締め切りとなります。また、開催場所は会津アピオスペースです。

今年は積雪が多い見込みですので、ハウス等の除雪作業は万全に。